

3月定例会

代表質問

自民クラブ

市長の政治姿勢を問う

問

市長に対する一連の不信任決議に関し、市長は、どのように受け止め、今後どう対応していく考えなのか。

また、平成25年1月17日から1月31日までの間、中学校区8か所で開催された住民説明会では、「説明会の名を借りた選挙の決起集会以外の何物でもなかった」、「市長は真実を伝えるために開催したと前置きしておきながら、事実をねじ曲げて説明している」などの声を聞く。開催の目的を含め、住民説明会の結果をどのようにみているのか。更に、多方面で本市のまちづくりが高く評価されている中、「西条市を再生できるのは今しかない、今ここから西条市を再生する」と語っているが、どのようなことを意図しているのか。また、「西条再生」に向けた取

組がどのように始まっているか。

答

今回の不信任決議については、新庁舎建設問題に関する一連の行動が判断で、議会軽視であると議会が判断をしたことによるものであると推察している。新庁舎の工事再開については、危機管理対策や財政面などの全てのリスクを考慮した上で判断をしたものであり、不信任決議については、非常に残念である。しかしながら、今回の不信任決議が結果として市民の市政への不信感や西条市のイメージダウン、市政停滞につながったことは事実であり、当事者としてはたいへん心苦しく、重ねて心からおわびするものである。

住民説明会については、新館整備事業や市の重要な事業について、市民に説明を行い、市民がじゅうぶんに理解し、納得した上で前に進めるべきと考えて開催した。今回の住民説明会は、中学校区で開催し、参加者は約2千400人に及び、一定の理解は得られたものと考えている。住民説明会を通して、市民の市政への関心の高さや熱意を感じ

じ、住民説明会の必要性を強く認識したところであり、市民との対話を大切にしながら、市民総参加のまちづくりを推進していきたい。

「西条再生」というフレーズには、前市政をベースとして、改良を加えながら、より良い西条市のかたちを創っていきたいとの考えが含まれている。これまでの市政のおかげで今日の西条市があり、感謝の気持ちを忘れることなく、新たなステージに向かって進んでいきたい。新年度は、市政の主役は市民であるとの認識の下、今まで以上に市民に接する機会を設け、対話のキャッチボールを繰り返していき、議会とも協調しながら、医療、福祉、教育環境の整備や地域経済の活性化など、本市が抱える諸課題の解決に向けて進んでいきたい。

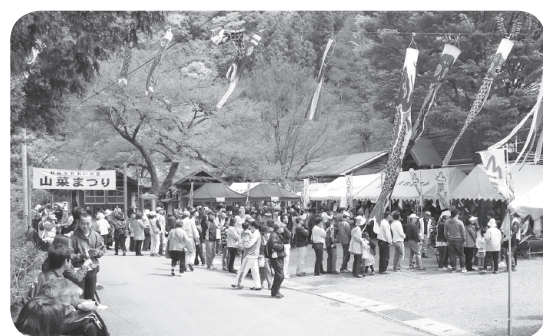
新政クラブ

どう取り組む！

市民の融和に向けて

問

市長選挙や市議会議員選挙を通じて地域間の溝が深まり、更に行政と市民との間にも溝が深まったとの声が聞こ



誰もが楽しめる交流イベントなどの開催を

える。一口に地域の一体感の醸成、市民融和と言っても、そこには時間と話し合いがなければ一朝一夕には成し得ない。今後は、市内4地域の人々が「合併して、ほんとうに良かった」と思える施策や行事を実施し、お互いを理解し合うことが、その溝を一つ一つ埋めていくことになるものと考えている。

幸い、新年度には水道料金の地域間格差の是正に向けた取組や、合併10周年記念イベントとして、石鎚山系を100マイル走るウルトラトレイルランの開催など、体育協会などを巻き込んでの工夫もなされている。

望まれるのは、市民が平等に恩恵を受けられるような政策は

もとより、誰もが楽しめるレクリエーションスポーツやイベントの開催などや、それらを市民に周知できる広報も大事である。市民誰もが住んで良かったと思えるまちにするため、今後、具体的にとどのような施策を推進していくのか。

答

多くの市民が望んでいるように、市政の混乱には終止符を打ち、これから融和一体化に向けての取組を考えていく必要がある。市民融和のためには、例えば地域を隔てることなく、誰もが同じ目的を持って楽しめる、人と人との交流ができるようなイベントなどの実施も効果的である。

合併10年を間近に控え、現在、10周年記念事業の実施を検討しているところであり、平成16年の合併を記念して取り組んだ事業などを参考にしながら、市民融和に資する、全市民的な一体感や達成感を感じることができると考えている。今後、多くの市民の意見を聞き、少しでも早く市民の心が一つになれるように、さまざまな取組を検討していきたい。